



第15回

女性いきいき大賞 受賞団体発表!

コープやまぐちが、山口県や報道団体などの後援を得て行っている「女性いきいき大賞」。応募された県内31団体から、選考基準に基づき、第15回目の各賞受賞団体が選ばれました。

女性いきいき大賞とは

女性いきいき大賞は、住み良い地域社会づくりと男女共同参画社会づくりをめざして創設。「くらしづくり」「子育て」「福祉」「地域づくり」の4分野で募集し、女性を中心となってチャレンジしている団体を表彰・支援し、活動が広がることを願っています。

第15回 受賞団体発表

- 最優秀賞(山口県知事賞)**
Style(ドットスタイル)(山口市)
- 優秀賞(朝日新聞社賞)**
一般社団法人 HapimamaPLUS(周南市)
- 優秀賞(yab山口朝日放送賞)**
★特定非営利活動法人山口ヘルス プロモーションネットワーク(山口市)
- 優秀賞(山口新聞社賞)**
サンプロジェクト It'sNakama(下関市)
- コープやまぐち奨励賞**
藍と愛の会(防府市)
★八代にっこに会(美祿市)
- コープやまぐち奨励賞・学生の部**
山口県立大学看護栄養学部栄養学科 食育プログラム開発チーム 食育戦隊ゴハンジャー
- コープやまぐち組合員賞**
★ゆうみん 桜の会(周防大島町)
★やまぐち若年性がん患者(AYA世代) サポートOneHeart(防府市)
あまから(生雲のお菓子屋さん)(山口市)
★はテーマグループ

最優秀賞 団体

Style(ドットスタイル)(山口市)

現在、約150万世帯にもわたると言われている「ひとり親世帯」。厚生労働省「平成28年度全国ひとり親世帯等調査」参照「Style」は、様々な事情を抱え、悩んでいるひとり親世帯へ向けて、弁護士や臨床心理士の方を招いた交流会や個別相談などの支援活動に取り組んでいる団体です。メンバーの6名は、ファイナンシャルプランナー、看護師、保育士、社会福祉士、キャリアコンサルタントなどの資格を持ち、専門的な視点からのサポートも行なっています。団体の成り立ちや、活動の原動力などを代表の小西さんにお伺いしました。



▲コロナ禍での支援活動の様子。

当事者だからこそ、できること

10年前に離婚した当時、まだ0歳と5歳の子どもたちをひとり育てていくことになった小西さん。「生きていくために仕事を始め、働きながらキャリアコンサルタントと社会福祉士の資格を取得しました。この悩んだ時期や、働くために助言をくださった方への感謝があったからこそ、「同じ境遇で苦しんでいる人たちの力になりたい」と考えるようになったんです。ある日、ごども明日花プロジェクト(※1)の勉強会に参加した際、「明日花シングルカフェ(※2)の運営をやってみないか」と誘われ、これも何かの縁だと思い、挑戦することを決めたのが支援活動の第一歩でした。団体名の「style」は、「社会の中に点在する親たちが「孤立」せずに、「自立」して、自分らしい生き方を表現できる社会」を願って名付けられました。「集まって助け合う」とも大事ですが、個々の生活を大切にしながら自立する、そんな思いを「style」に込めました。ライフスタイルや抱えているものもみんな違いますし、当事者にしかわからない苦しみもあります。ゆくゆくは、ひとり親も含めて様々な家族の形が普通に捉えられる社会になれば良いなと思います。

Style

▲.styleロゴ。

コロナ禍での活動と気づき

2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響でカフェや交流会は断念し、代わりにフードパントリーでの食



代表 小西凡子さん

人との繋がりの大切さを実感しています

品支援や、マンツーマンで学習支援を行う「まなぶスタイル」など、新しい取り組みも始められました。活動をしていく中で、全国フォーラムに参加した際、都会で暮らすひとり親の厳しい現状に驚かされたそうです。「今後は、都会に住んでいるひとり親と過疎化の進む田舎とのマッチングができないかと考えています。活動に協力いただいている阿東の皆さんからは「子どもの声が響かなくなると寂しい」などの声も聞きます。夏休みにお婆ちゃん家に帰ってくるような感覚で、田舎の魅力に触れて、「世帯でもここに住んでみたい」という家族が増え、地域づくりに貢献できたらうれしいです。



▲学習支援「まなぶスタイル」の様子。

相手の気持ちに寄り添った言葉がけ

「応援してくれている子どもたちや近所さんなど、自分が苦しい時に支えてもらった恩を返していきたいという気持ち、今の活動を支える原動力になっています」と小西さん。「何気ない一言に傷つくことありますよね。だから私は、言葉選びに「一番気を遣っています。」「ううして〜」ではなく、「そうだね」と共感し、「一緒に悩んで、解決策を探していくことで、相談者が一歩前に進めるお手伝いができればと思います。今回の受賞の通知を受け取った時には、まさかという思いでしたが、この受賞を糧に、これからも支えてくれる方々と一緒に自信をもって活動に取り組みしていきたいと思えます。」



▲小西さん対談の様子。

(※1) 家庭の事情や経済的困難のある子どもたちに、居場所づくり・学習支援・地域包括支援などの支援を行う団体
(※2) ひとり親同士が気軽に情報交換したり、相談したりすることができるカフェスペース。

今回受賞されたテーマグループの皆さんをご紹介しました。皆さんの活動をご紹介します。

特定非営利活動法人山口ヘルスプロモーションネットワーク(山口市)

「地域力を高めて健康まちづくりを進める」という理念のもと、認知症カフェ「阿知須オレンジカフェ」や「ana labo」マラボを開催。今年度は1000枚以上の手作りマスクを作り、高齢者にマスクを届けた。様々な世代が集い、つながり合うことでみんなの「やってみよう」が生まれる場所として、阿知須での豊かな暮らしをサポートをめざす。

八代にっこに会(美祿市)

地域の活性化・社会との関わりを持つことを目的に、ふれあいサロンを開催。小学生との交流会や、特養施設にて古布ファッションショーや歌を披露する訪問活動も実施。その他、独居の高齢者宅を駐在所のお巡りさんと一緒に訪問し、コミュニケーションをとっている。お互いが支え合い、地域の人がたがいつまでも笑顔で元気に心豊かに長生きしてほしい。

ゆうみん桜の会(周防大島町)

荒廃地の開墾を行い、かんきつ類や桜を中心とした花卉を植樹し、お年寄りから近くの園児まで、若男女が楽しめる世代を超えた交流の場づくりを行う。今後は周防大島町の桜めぐりマップを作成して、町の美しい自然をPRしていきたい。高齢化・人口減少が進む地域を元気にし、油宇で暮らす方々の生きがいになればと考えている。

やまぐち若年性がん患者(AYA世代)サポート

OneHeart(防府市)

代表者が18歳でがんを発症時、絶望や恐怖感を周囲のサポートにより救われた経験から、若年者特有の悩みを特化した支援が必要だと考え、活動を開始。患者とその家族からの相談対応や交流会・勉強会などを実施。患者の精神的ストレスを緩和し、孤立させず、社会とつながる架け橋となることをめざし、「たった一人のあなたのために」という気持ちで大切にしている。

※AYA世代とは、Adolescent&Young Adult(15歳から39歳の思春期・若年成人)のこと。

ホームページとfacebookもご覧ください。



▲ホームページ



▲facebook

第16回女性いきいき大賞の応募受付開始は7月からの予定です。

お問い合わせ 組合員活動グループ 01220・27・5520(月～金9時～18時)



受賞団体へ贈られる盾。